



# 奈良大学図書館

## 世界遺産に囲まれて 「生きた学問」を

悠久の歴史とその歴史が育んだ多くの文化財を誇る世界遺産都市・奈良。今も発掘調査が続く平城宮跡の西北に広がる丘陵地帯に、奈良大学のキャンパスがあります。

1925(大正14)年に設立された南都正強中学に端を発する奈良大学は、創立者藪内敬治郎氏の「国のまほろば奈良は、日本の奈良であり、世界の奈良である。この地に大学をたて、世界的視野を持つ人間を育成する」という願いに基づいて1969(昭和44)年に、文学部国文学科・史学科・地理学科の3学科を擁する大学として開学しました。1979(昭和54)年に文化財学科が増設され、1988(昭和63)年には現在の地にキャンパスを移転するとともに、社会学部が増設されました。創立の理念どおり、奈良の歴史や文化に実際に触れる「生きた学問」を重視した教育や研究

が続けられています。また、世界遺産となる条件やその保存と活用について、学科の枠を超えて横断的に勉強できる世界遺産コースが設置されているのも、奈良大学ならではの特色です。

さらに2005(平成17)年4月には、通信教育課程である文化財歴史学科が開設され、歴史に興味を持つ中高年層の受講が期待されています。

## 「奈良」を感じさせる図書館

日当たりのいい斜面に沿って、奈良大学の校舎が並んでいます。校舎を結ぶ回廊を巡って辿りつく先に、奈良大学図書館があります。

メインアプローチを抜けると、アーチ型の天窗が印象的な吹き抜けのあるホールが広がり、ホールの奥には一対の金剛力士像が安置されています。ここは古都・奈良らしい趣ある落ち着いた空間です。

ホールの天窗や閲覧室の窓からは、夜

景で知られる若草山をはじめ周辺の山々が望まれ、図書館で勉強しながらも、豊かな自然や季節の移ろいを感じることができます。また、弧を描く大きな窓のあるブラウジングスペースや、吹き抜けに面した廊下のソファなど、学生がくつろげる空間も用意されています。

## 学生たちの熱意にあおられる面も

「私たちは本学の学生に関しては“読書離れ”をさほど気にはしていません」と、石原潤館長はおっしゃいます。

奈良大学には、奈良で美術史を勉強したい、飛鳥や平城京の遺跡がある中で古代史を勉強したいなど、明確な目的意識を持った学生が全国から集まります。そのような学生が多いので、とても熱心に勉強し、新しい知識にも敏感で貪欲です。「学術的な本でこれがないといけないうようなものを学生が購入希望してきたり、もっと専門的な本が必要じゃないかと、我々がむしろお叱りを受けたりするようなこともあって、非常に頼もしく感じています」(松井朗課長補佐)。

その熱意は、学生一人当たりの年間貸出冊数が高い数字であることからもうかがい知ることができます。

## 「奈良」に関する資料を充実

大学の教育・研究が歴史や文化財に関するものが多いので、図書館では歴史や美術史に関する資料の収集に力を入れています。また、「奈良学」や「世界遺産学」といった授業があるため、奈良や世



右から石原潤館長、磯野肇主任、松井朗課長補佐

# 「奈良で学ぶ贅沢。」を こころゆくまで堪能してほしい

学校法人創立80周年を迎える奈良大学では、奈良に魅せられた学生たちが全国から集まり、世界遺産に囲まれたすばらしい環境の中で、歴史学や考古学、萬葉学などを学んでいます。

奈良大学図書館は、大学のキャッチフレーズ「奈良で学ぶ贅沢。」を存分に堪能できるよう、学生たちをリードし、サポートしています。



## 金剛力士像

奈良大学図書館のメインアプローチの奥、吹き抜けのあるホールには、約3メートルも大きさの金剛力士像一対が安置されています。これらは、杉の一木造りで平安時代後期に製作されたものと推定されています。両腕、両足首が失われているもの、図書館に古都らしい趣をもたらすだけでなく、学生の実習教材としても活用されています。



界遺産に関する資料も重点的に収集しています。現在は、全蔵書約34万冊のうち和書が約25万冊、さらにそのうちの約6%が奈良に関する資料です。

奈良関連の資料の収集のために、毎年予算の中からある割合を常に確保しています。多少なりとも奈良に関係する内容であれば、分野を問わず収集します。中には奈良出身の作家の著書もあれば、

奈良県の政策や産業に関する本もあります。立ち寄った本屋に奈良関連の本を見つけ、その場で購入することもあります。「実はこういうときにLIMEDIOの携帯版OPACは便利なのです」（松井補佐）。携帯版OPACの導入により、本屋の店先で図書館の蔵書を確認してから購入することができるようになったそうです。

こうして集められた資料は、館内の一角



## 百万塔陀羅尼經

開版年代の明らかな印刷物としては世界最古といわれる「百万塔陀羅尼經」は、藤原仲麻呂の乱を契機に、称徳天皇が陀羅尼を収めた三重小塔百万基の造立を発願し、770年に完成、法隆寺はじめ10か寺に分置したものです。現在は約4,600基あまりが現存するといわれており、その中の1基が、展示ホールに展示されています。



## 数々の古書・漢籍・貴重資料

奈良大学図書館は「東海道五十三次版木」や浮世絵、正倉院収蔵品図録など、歴史的・美術的に貴重な資料も多く所蔵しており、一部は保存庫に保管されています。また、「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されたのを機に、吉野・熊野に関連する資料の収集も進められています。これらの貴重資料は、定期的にテーマを決めて、メインアプローチの隣の展示スペースに展示されます。

に設けられた奈良関係資料コーナーに並んでいます。ですが、文学のコーナーにも奈良時代に関する本があり、古代史の書架にも奈良時代の歴史の本が必要です。つまり、図書館自体が奈良関連専門図書館であるともいえます。

奈良に関する資料については学生からの購入依頼はほとんどありません。図書館は15年以上にわたって奈良関係の資料



の収集を続けてきたので、「学生から不備を指摘されるようでは我々としても立場がないです(笑)」(松井補佐)。

学生が学習や研究のテーマを見失ったとき、図書館に並ぶ本を見て、新たな気づきやイメージーションが湧いてくることがあれば、というのも、奈良関連資料を収集する狙いのひとつでもあります。

### 貴重書も含めほぼすべてが閲覧可能

奈良大学図書館では、蔵書の95%が開架です。しかも、一部の貴重なものを除いてほぼすべての資料が閲覧可能です。巻物や浮世絵、版本などは保存庫で保管しており、その中でも貴重なものは教員しか見ることができませんが、それ以外は学生にも館内貸出をして閲覧させています。

資料には、貴重資料も含めてすべて資料IDがつけられています。したがって、東海道五十三次の版本や百万塔陀羅尼經にいたるまで、すべての資料がOPACで検索できます。OPACで検索し、見たい資料があれば、カウンターで館内貸出の手続きをします。学生は図書や雑誌と同様に閲覧し、見終わったらカウンターに返却します。「いわば性善説に基づいた運用ですな」(松井補佐)。

ですが、学生は授業の中で貴重資料の扱い方を教わるので、乱暴な扱いはしないそうです。「先生が授業で使ったもの

をもう一度見たいという要望が多いと思いますが、先生が丁寧に扱うものを、学生がよい加減に扱うわけにはいかないのです」(磯野肇主任)。先生の手つきを見て、学生は「これは特別なものだ」ということがわかり、自然とまねるようになります。

確かに学生が資料を扱えば、資料は痛みます。よく使われて勉強するものほど痛みはひどくなるので、可能なものは買い替えるようにしていますが、買い替えられないものは「これだけ使ってもらったのだから」と、あきらめることもあるそうです。

### 「奈良」の資料を積極的に公開したい

奈良大学は、NACSIS-CATを早い時期から利用してきましたが、自館の所蔵登録が進んでいなかったため、「NACSIS-CATにはないのですが、この資料を持っていますか?」という問い合わせを受けることが少なくありませんでした。

LIMEDIO導入後NACSIS-CATへの登録を積極的に進めてきた結果、導入当初は6万件弱だった登録数が、現在は10万件程度まで増加しました。2005年度中には、和書について、現在NACSIS-CATにある書誌に自館の所蔵をすべて登録する計画です。それが完了したら、次の段階として奈良大学にしかない資料の登録も視野に入れているそうです。それによって「奈良大学はユニークな資料を持って

いるという評判が高まれば、大学の評価にもつながっていくと思います。」(松井補佐)。

### 図書館というシステムのレベルアップを

奈良大学図書館では、LIMEDIOの導入により、データの整備も含めて多くの課題が解決しつつある、と松井補佐はおっしゃいます。「10~15年前はシステム化がゴールで、それだけで手いっぱい、何のためのシステム化なのかを忘れていました」(磯野主任)。課題が解決しつつある今、図書館という広義のシステムをよりレベルアップさせ、利用者サービスの向上につなげていくのが次の目標です。

具体的には、利用者教育と電子図書館機能の充実です。熱心に図書館を利用する学生がいる一方で、図書館に足を運んだことのない学生もいます。二極化する学生のそれぞれに適した利用者教育を考えるのが、これからの課題です。新たに開設される通信教育部の学生に対するSDIや郵送貸出などのサービスも必要です。また、大学で作った学術情報をインターネットで発信する仕組みの整備も期待されます。「我々は図書館サービスの質的向上を常に目指してきましたが、LIMEDIOの活用によって、より理想に近づくことができたと思っています」(磯野主任)。

「奈良で学ぶ贅沢。」をより多くの人々に享受してもらおうと、図書館の努力が続けられています。

■この記事は2004年12月6日の取材に基づいています。



### 図書館プロフィール

LIMEDIO導入:2003年4月

ユーザー数	奉仕対象	3,655人
	図書館職員	10人
データ	蔵書数(図書)	340,000冊
	蔵書数(雑誌)	5,200種
	年間受入数(図書)	11,000冊
	年間受入数(雑誌)	2,390種
	一人当たり年間貸出冊数	16冊
開架図書率		95%

2004年12月31日現在のデータ

### システム構成

業務DBサーバー	1式
検索DBサーバー	1式
アプリケーションサーバー	1式
業務用端末	14台
業務用プリンター	2台
利用者検索用端末	30台
利用者用プリンター	5台